

統計データ分析結果(案)

平成 28 年 8 月 4 日

農林水産省

目 次

1. 統計データ分析の概要		1
2. 統計データ分析の結果		
(1) 地域資源の保全管理		2
(2) 農村地域の活性化		4
(3) 農村環境の保全・向上		7
(4) 構造改革の後押し等地域農業への貢献		8

1. 統計データ分析の概要

(1) 調査の目的

多面的機能支払に取り組む地域の状況を評価するため、既存の統計データを、多面的機能支払に取り組んでい
る農業集落(以下、「取組あり」という。)と取り組んでいない農業集落(以下、「取組なし」という。)に区分、又は、旧市
町村単位で集計した多面的機能支払のカバー率(以下、「カバー率」という。)で区分して、経営耕地面積や資源保全
の推移等を分析する。

(2) 調査内容

平成28年6月に公表された「農林業センサスを中心とした総合データベース」等を活用し、以下のデータ
項目と多面的機能支払の取組との関係について分析。

【農林業センサスを中心とした総合データベースの概要】

- ・ 農業集落単位（約14万箇所）で2010年農林業センサスの結果と多面的機能支払交付金等の施策情報、
国勢調査の結果等の他省庁の統計情報等を比較することが可能
- ・ これらの様々なデータを組み合わせた横断的な分析、表やグラフへの加工、今回、新たに、地図上へ
の表示がシステム上一部可能

(http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html)

【今回の分析で使用したデータ】

- ・ 農林業センサス（2005年（平成17年）、2010年（平成22年）、2015年（平成27年））
- ・ 多面的機能支払の取組区域GISデータ（平成26年度実績）

【今回の分析に使用したデータ項目】

- ・ 経営耕地面積規模別面積
- ・ 農地、農業用排水路等の地域資源の保全している農業集落数
- ・ 寄り合いの開催回数別農業集落数、寄り合いの議題別農業集落数 等

※ 今回の分析は、多面的機能支払の取組区域を精査できた37道府県について集計を行った。

※ カバー率＝（各旧市区町村内のH26年度取組農用地面積の計）／（各旧市区町村内の2010年農林業センサスにおける農業集落別耕地面積の計）

※ 今回掲載している統計データについては、検定により有意性を確認している。

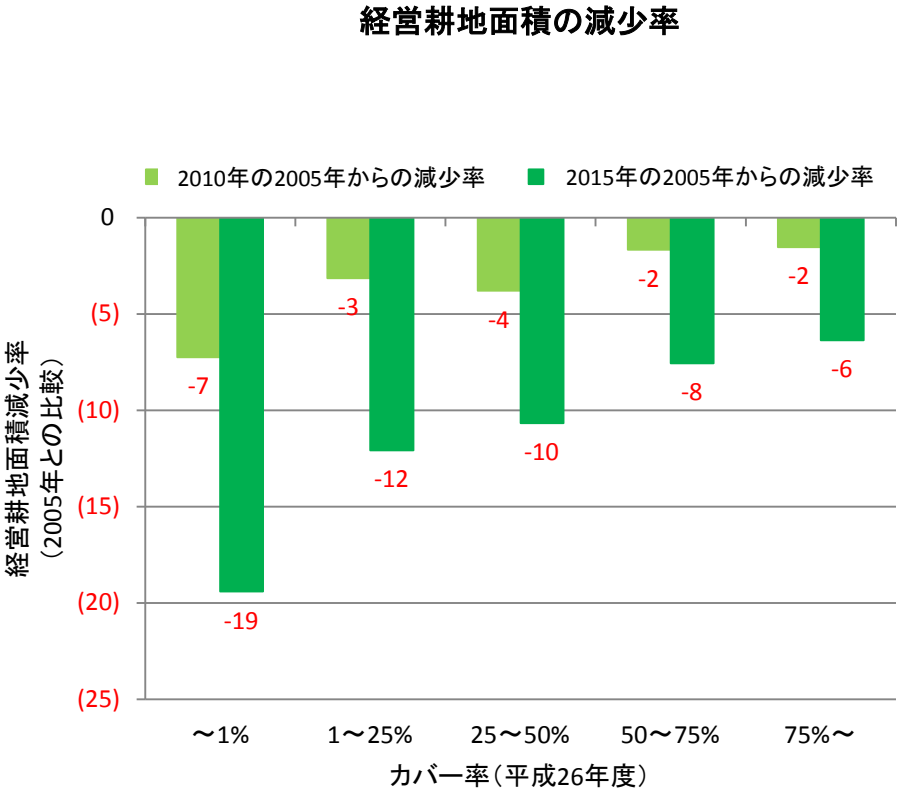
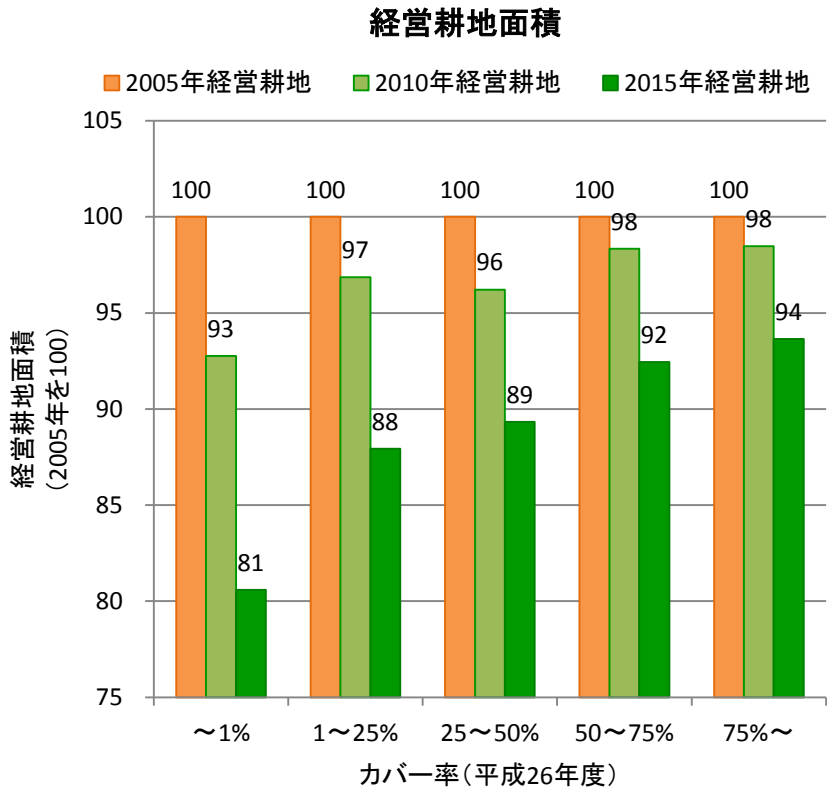
2. 統計データ分析の結果

(1) 地域資源の保全管理

1) 遊休農地の発生防止・抑制

○ 平成26年度のカバー率と農林業センサスにおける経営耕地面積の関係を旧市区町村単位でみると、経営耕地面積は2005年から年々減少しているものの、カバー率が高いと経営耕地面積の減少率が小さい傾向がみられる。

経営耕地面積と多面的機能支払のカバー率との関係



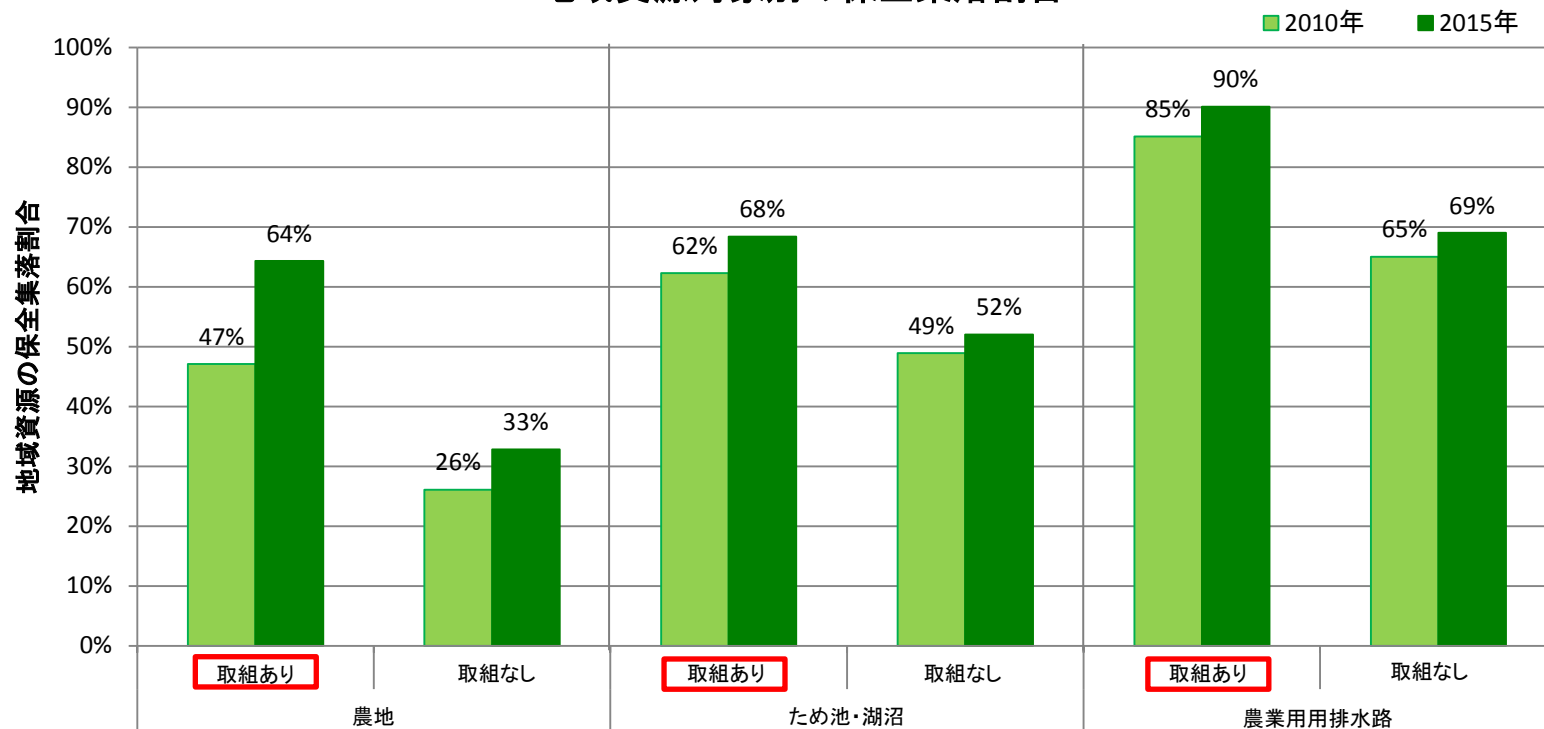
※ 左図は、2005年における経営耕地面積を100とした2010年及び2015年の経営耕地面積の割合を、各カバー率の範囲に該当する旧市区町村の平均値で示したもの。
※ 右図は、2005年からの減少率を示したものである。

(1) 地域資源の保全管理

2) 地域資源対象別の多面的機能支払の取組有無別の保全集落割合比較

- 2010年及び2015年の農林業センサスにおいて、「地域資源がある」と回答した集落のうち、平成26年度の多面的機能支払の取組の有無別に、地域資源の保全集落の割合をみると、「取組あり」の集落は、「取組なし」の集落に比べて農地・ため池等の地域資源を保全している集落の割合が高い。
- また、2010年と2015年を比較すると、いずれの地域資源も「取組あり」の集落が、「取組なし」の集落に比べて伸びが大きい。

地域資源対象別の保全集落割合



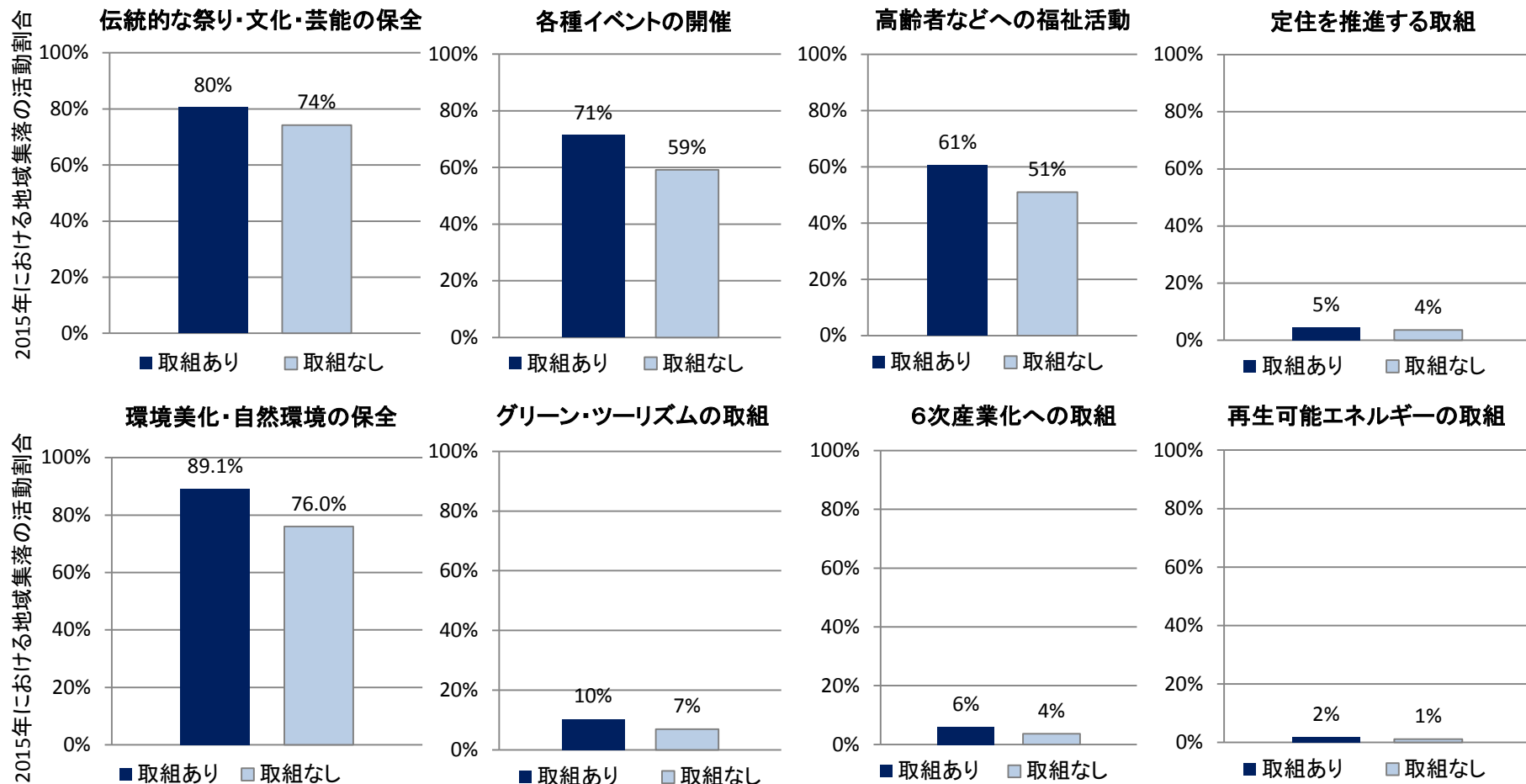
※ 地域資源の保全集落割合＝(該当の地域資源を保全していると回答した集落数)／(集落総数－地域資源がないと回答した集落数)

※ 「取組あり」とは、集落内における取組面積が50a以上の集落とし、「取組なし」とは、集落内における取組面積のない集落である。

(2) 農村地域の活性化

1) 活性化のための活動をしている集落の割合

○ 平成26年度の多面的機能支払の取組の有無別に、2015年の農林業センサスにおける地域の活性化のための活動をしている集落の割合をみると、全ての項目において、「取組あり」の集落が、「取組なし」の集落に比べて活動している割合が高い。



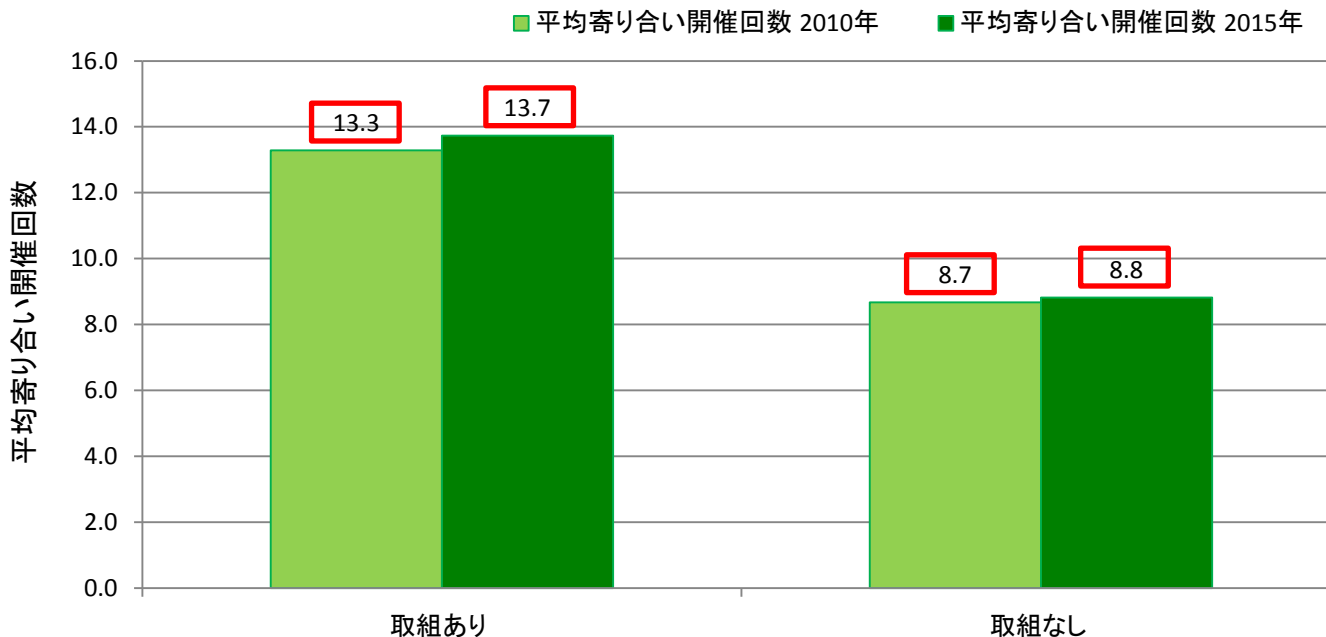
※ 地域集落の活動割合＝(活動項目別に活動が行われていると回答した集落数)／(集落総数)

(2) 農村地域の活性化

2) 集落内の寄り合い回数

- 平成26年度の多面的機能支払の取組の有無別に、農林業センサスの2010年及び2015年における農業集落内の平均寄り合い開催回数を比較してみると、「取組あり」の集落は「取組なし」の集落に比べて各年ともに、平均寄り合い開催回数が多い。
- また、「取組あり」の集落と「取組なし」の集落の寄り合いの平均開催回数の経年比較をみると、2010年よりも2015年の方が多く、「取組あり」の集落の方が0.3ポイント伸びている。

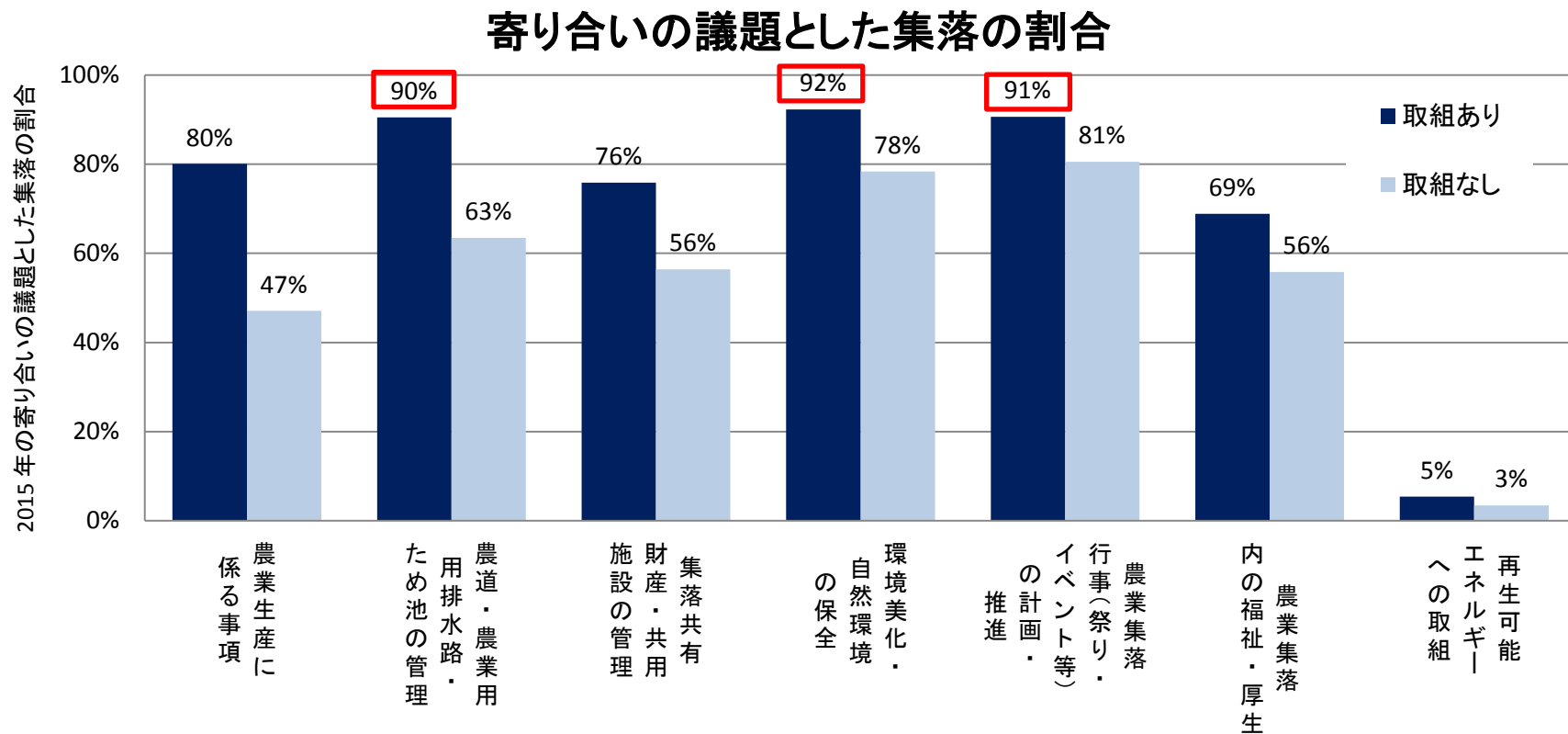
集落内の平均寄り合い開催回数



(2) 農村地域の活性化

3) 集落内の寄り合いの議題

- 平成26年度の多面的機能支払の取組の有無別に、2015年の農林業センサスにおける寄り合いの議題をみると、「取組あり」の集落は「取組なし」の集落に比べていずれの項目も議題としている割合が高い。
- また、「取組あり」の集落は、9割以上が「農道・農業用排水路・ため池の管理」、「環境美化・自然環境の保全」、「農業集落行事(祭り・イベント等)の計画・推進」を議題としている。



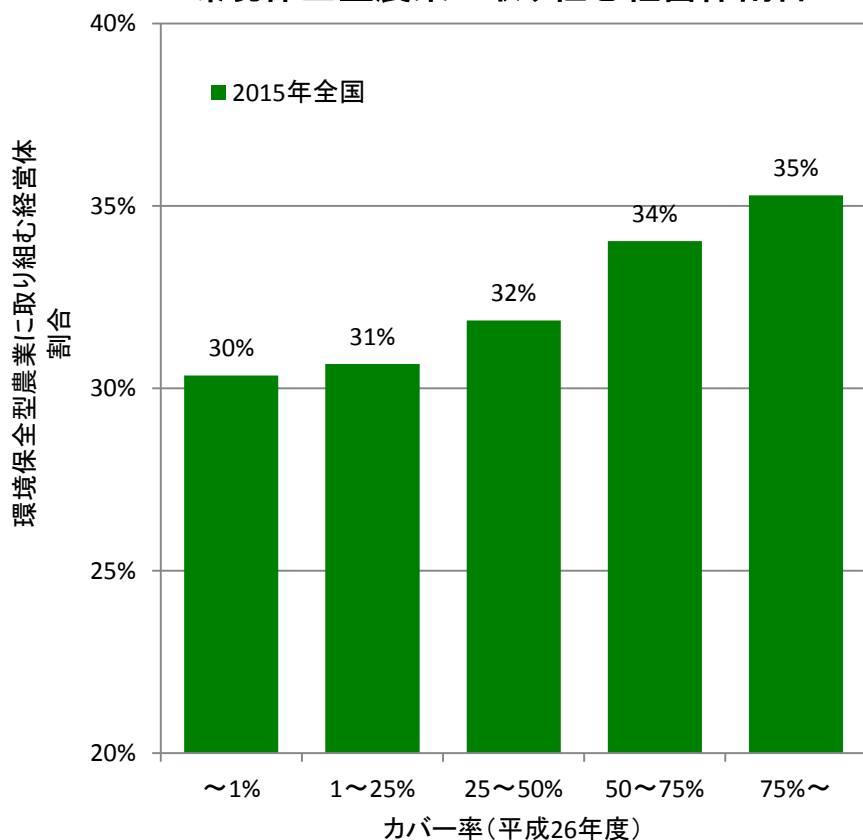
※ 寄り合いの議題とした集落割合＝(議題別に寄り合いが行われていると回答した集落数／集落総数)

(3) 農村環境の保全・向上

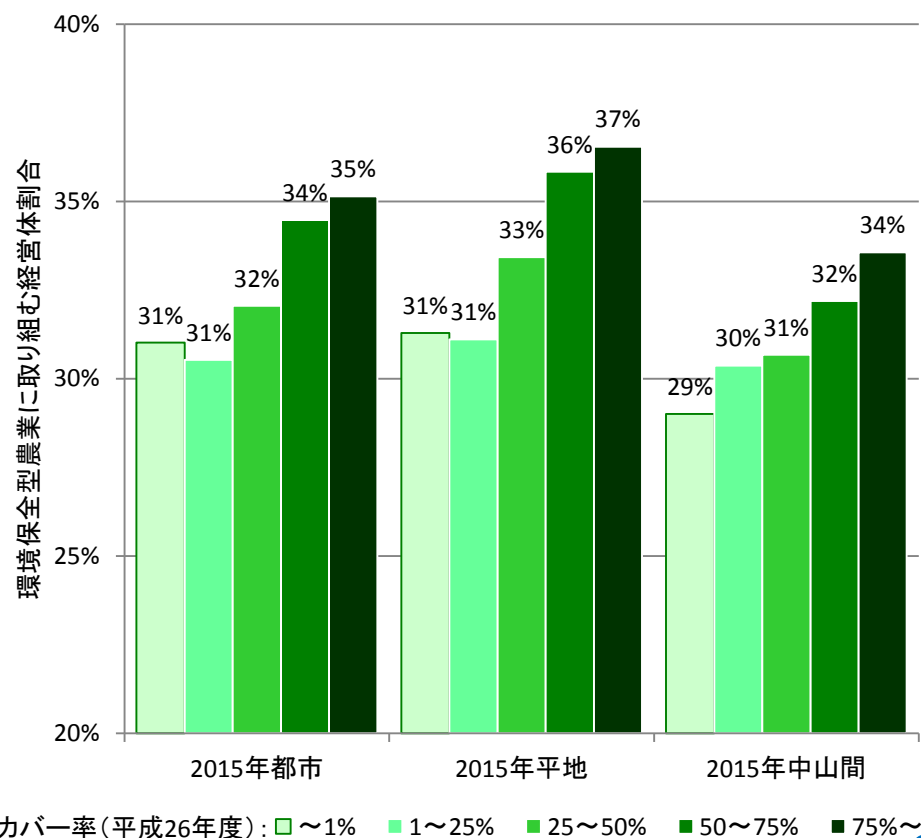
1) 環境にやさしい農業への取組

- 平成26年度のカバー率と、農林業センサスにおける環境保全型農業に取り組む経営体の割合の関係をみると、カバー率が高いほど環境保全型農業に取り組む経営体の割合が高くなっている。
- 環境保全型農業に取り組む経営体の割合は、農業地域類型間で差が見られるものの、いずれの農業地域類型においてもカバー率が高いとその割合は高い傾向がみられる。

環境保全型農業に取り組む経営体割合



農業地域類型別の環境保全型農業に取り組む経営体割合



カバー率(平成26年度): □ ～1% □ 1～25% □ 25～50% ■ 50～75% ■ 75%～

※ 都市:都市的地域、平地:平地農業地域、中山間:中間農業地域及び山間農業地域

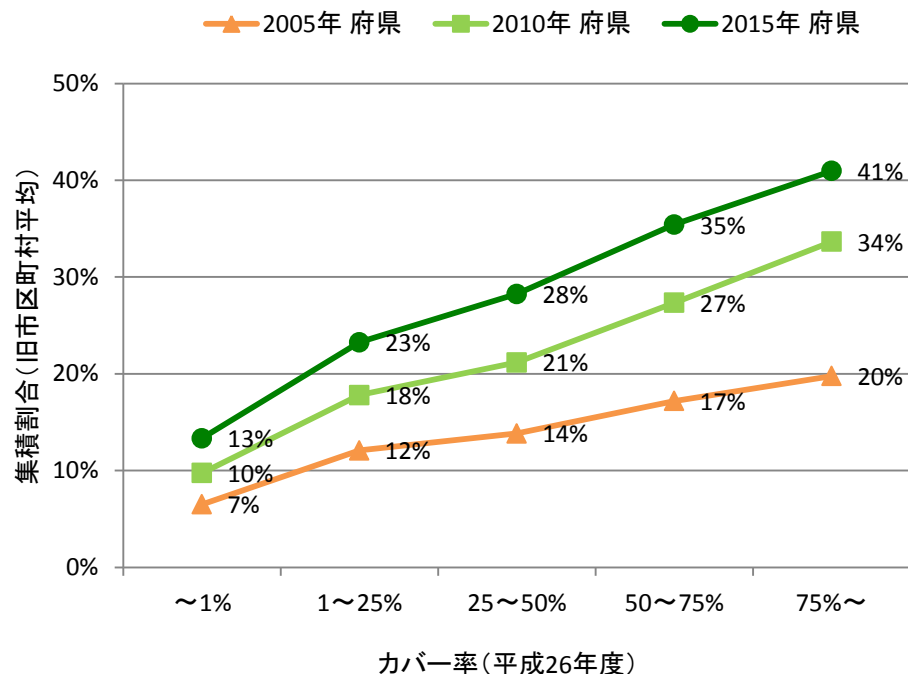
(4) 構造改革の後押し等地域農業への貢献

1) 農業経営体の経営耕地面積の状況

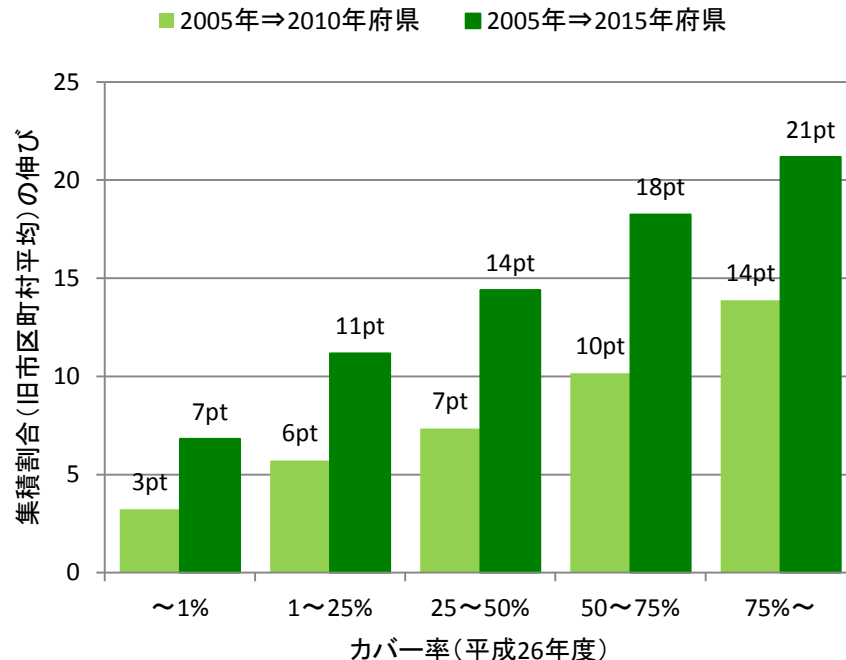
- 農林業センサスにおける経営耕地面積が5ha以上である農業経営体の経営耕地面積(以下、「5ha以上経営面積」という。)が全ての農業経営体の経営耕地面積に占める割合(以下、「集積割合」という。)について、府県の旧市区町村単位で算出し、カバー率毎に平均した値をみると、カバー率が高いほど集積割合が高い。
- また、集積割合の2005年から2010年及び2015年への伸びについても、カバー率が高いほど大きい。

集積割合と多面的機能支払のカバー率との関係

集積割合



集積割合の伸び

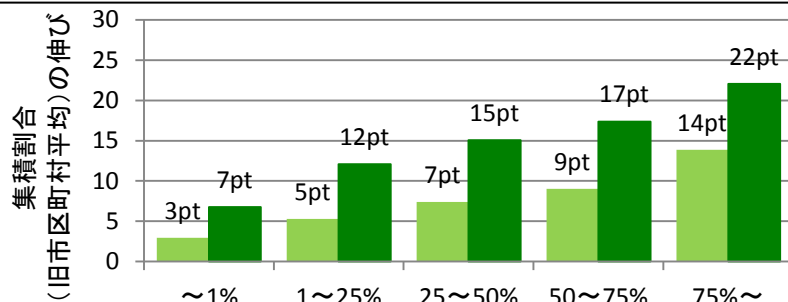
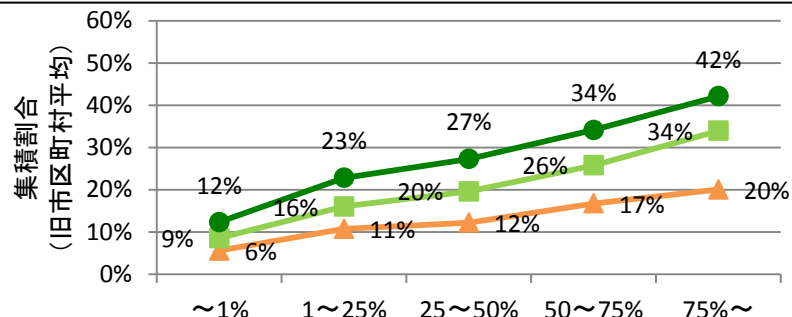


(4) 構造改革の後押し等、地域農業への貢献

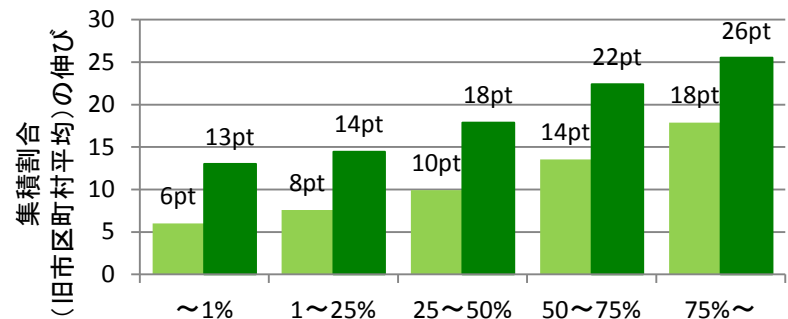
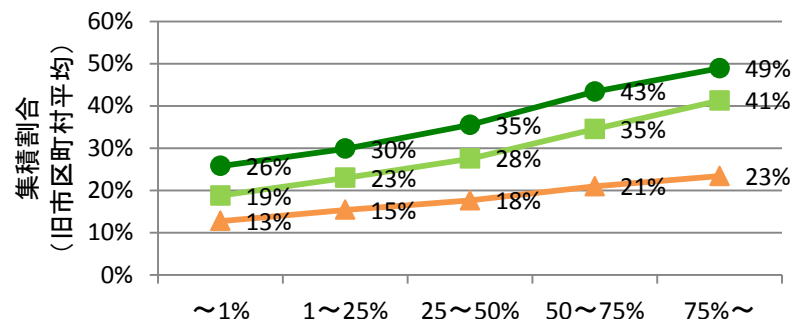
2) 農業経営体への経営耕地面積の状況(農業地域類型別)

- 農業地域類型別に集積割合と平成26年度のカバー率の関係を府県についてみると、農業地域類型間で差はあるが、カバー率が高いと集積割合が高い傾向がみられる。
- また、集積割合の2005年から2010年及び2015年への伸びについても、カバー率が高いほど大きい。

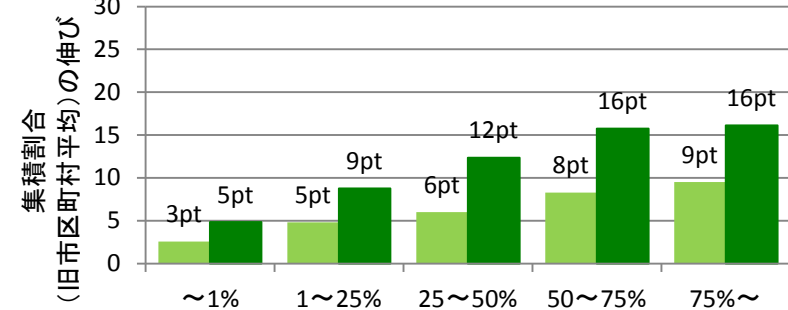
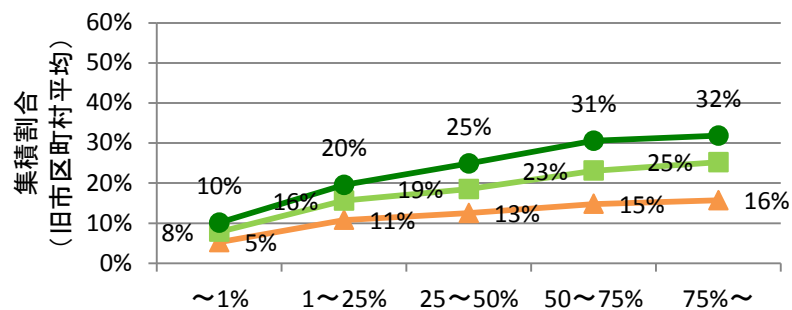
都市的地域



平地農業地域



中山間地域



カバー率(平成26年度)
 ▲ 2005年府県 ■ 2010年府県 ● 2015年府県

■ 2005年⇒2010年府県 ■ 2005年⇒2015年府県